


業務名：H 28 西森公園災害防除
基本設計調査業務委託
位置：沖縄市越来一丁目地内

報 告 書

平成 29 年 12 月

沖縄市役所 建設部 建築・公園課



4-3. 古墓・塚調査

平成 23 年度に台風により発注された「災害防除設計」時に、公園の西側～南西側にかけての斜面に 18 基の古墓の存在が確認され、(図 4-3-1-1)、そのうち 2 箇所(墓-7 と墓-8)は塚として使用されていた可能性が高い(次項(2)を参照)。また、墓-11 は平成 28 年度の本事業においてのボーリング調査時に、新たに確認されたものである。

(1) 古墓(墓-1～墓-6、墓-9～墓-19)

平成 27 年度の「西森公園災害防除工事(第 3 期工事)」時には、法面工事範囲となった西側～南西側斜面における 8 基(墓-1～墓-6、墓-9、墓-16)の墓の内部に、合計 151 個の蔵骨器(厨子甕等)があることが確認され、それらは沖縄市納骨堂へ移設されたのち(写真 4-3-1-1)、工事が行われた。

平成 28 年度の本事業においては、南西側斜面の 10 基(墓-10～墓-19)の古墓の調査を行っており、表面の亀裂部分からの内部調査なども行うことで(写真 4-3-1-2)、墓の位置・状況確認を行っている。これまでに確認された古墓合計 19 基について、その対策の実施状況を含め一覧表として示す(表 4-3-1)。墓-7(塚)、墓-8(塚)については次項(2)を参照。

また、官報と市公報および現地立て看板にて「無縁墳墓改葬広告」を、平成 28 年 1 月から 1 年間を期限として周知した。

表 4-3-1. 古墓数・対策実施状況一覧(黒字：対策済、赤字：対策未、緑字：塚)

調査・対策年度	墓No.	奥行き(m)	蔵骨器有無	蔵骨器数	蔵骨器移設状況	墓撤去・対策状況	
H24 調査実施	H27 対策済	墓-1	1.9	有	7	済	済
		墓-2	1.8	有	14	済	済
		墓-3	2.2	有	22	済	済
		墓-4	1.0	有	13	済	済
		墓-5	2.2	有	14	済	済
		墓-6	3.0	有	39	済	済
		墓-7(塚)	埋もれており確認不可	無	0	—	済
	墓-8(塚)	6.0	無	0	—	済	
	墓-9	蔵骨器が露出した状態	有	2	済	済	
	H28 対策未	墓-10	※1			未	未
墓-11		2.5	有	4	未	未	
墓-12		2.2	有	3	未	未	
墓-13		※2			未	未	
墓-14		2.5	有	16	未	未	
墓-15		3.5	有	12	未	未	
墓-16		4.0	有	40	済	未	
墓-17		1.5	有	1	未	未	
墓-18		2.0	有	3	未	未	
墓-19		2.0	有	9	未	未	

※1 墓口が崩壊し塞がれており、内部の確認不可能

※2 墓口がセメントで塞がれており、内部の確認不可能

※「墓」と「塚」の判別基準としては、奥行きが 3.0m 以上と深く、また内部に蔵骨器が確認されなかった箇所について、「塚」の可能性が高いと判断している。

※個別の墓の写真については、別紙参照。

調査箇所は、昔から住宅地から少し離れ緑が覆い茂った雑木林となっており、石灰岩斜面に人力で掘削され、古い骨壺が収められた古墓群の場所として存在している。

西森公園災害防除工事（第3期工事）区間で8箇所の古墓が存在し、工事において遺骨の移転・撤去を行った。本調査区間においても、10箇所の古墓が確認されており、斜面の安全度を検討する上で、空洞(古墓)の位置と大きさを抑える必要がある。

※墓口の開口が可能な箇所において、内部に小型カメラを挿入して骨壺状況(数量)および空洞状況の確認を行った。



写真 4-3-1-1. 平成 27 年度・遺骨移設状況（右下：沖縄市納骨堂への収納状況）



写真 4-3-1-2. 平成 28 年度・墳墓調査状況

(2) 壕（墓-7、墓-8）

平成10年7月、民家の駐車場工事の際に、公園内に人工壕が発見された（「沖縄市史-第四巻-自然・地理・考古編」P207より。詳細は「沖縄市史-第五巻-戦争・移民編」に掲載予定だが未発刊）と記述されており、平成24年度の調査（「西森公園災害防除工事(第1期工事)」）時に確認されたものと同じと思われる（図4-3-1. 墓⑦、墓⑧）。平成27年度の「西森公園災害防除工事(第3期工事)」の「遺骨移設報告書」内で、他の墓は「墓」と記載されているのに対して、墓-7(壕)のみは「穴」と記載されており、その大きさ等については不明だが、蔵骨器等は存在しなかったと思われる。また、墓-8(壕)の大きさは幅3.3m、高さ1.5m、奥行6.0mであり、平成27年度の「西森公園災害防除工事(第3期工事)」の際に除去された。



写真 4-3-1-3. 壕入口・内部（墓-8）

次ページより、

- ・ 古墓位置平面図
- ・ 縦断面図
- ・ 推定土層断面図(古墓位置)
- ・ 古墓調査写真(別紙参照)

に古墓調査内容を示す。

また、古墓と用地境界付近の状況について

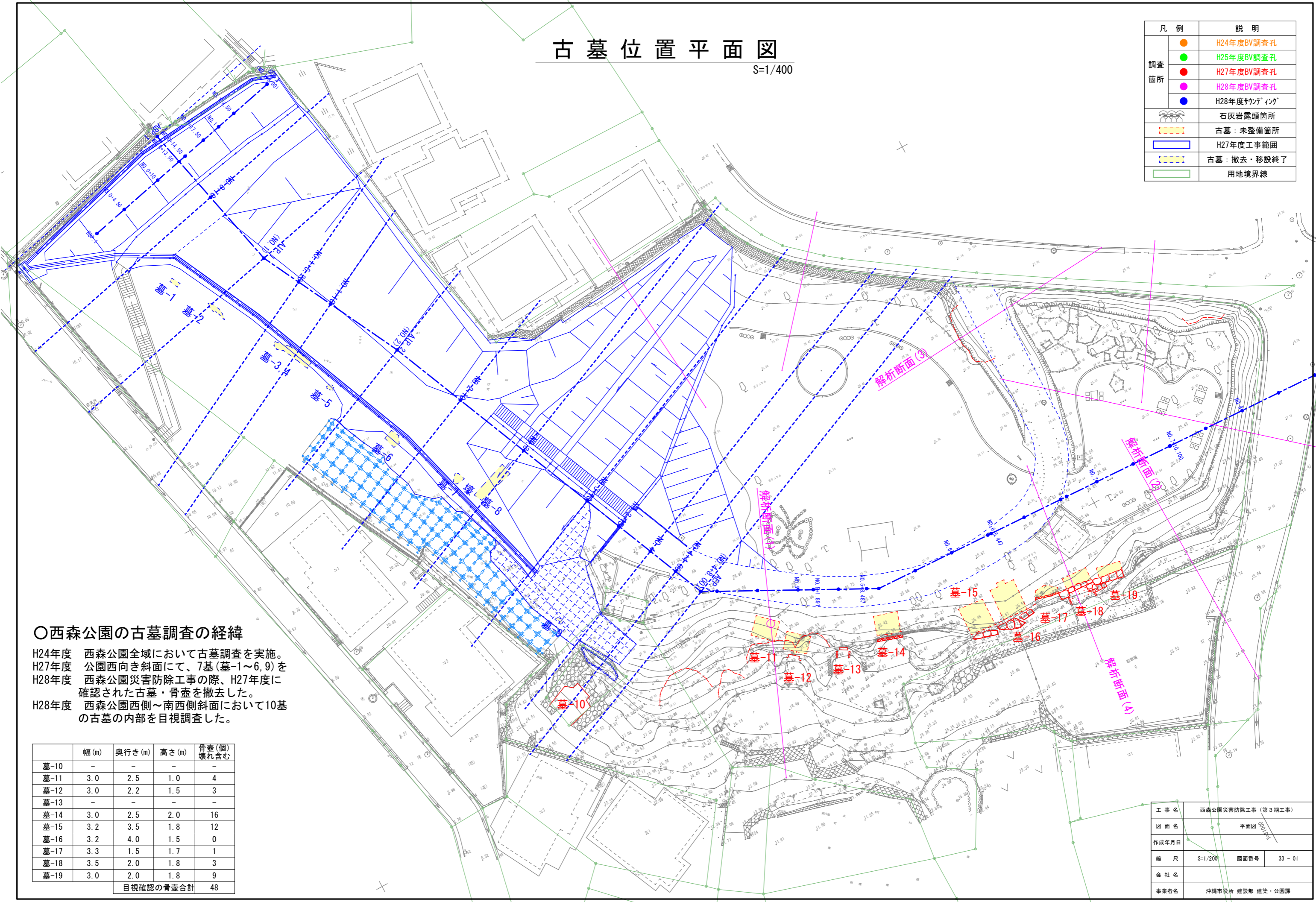
- ・ 傾斜面踏査平面図

にまとめ報告する。

古墓位置平面図

S=1/400

凡例	説明
●	H24年度BV調査孔
●	H25年度BV調査孔
●	H27年度BV調査孔
●	H28年度BV調査孔
●	H28年度サンディング
⊕	石灰岩露頭箇所
□	古墓：未整備箇所
□	H27年度工事範囲
□	古墓：撤去・移設終了
—	用地境界線

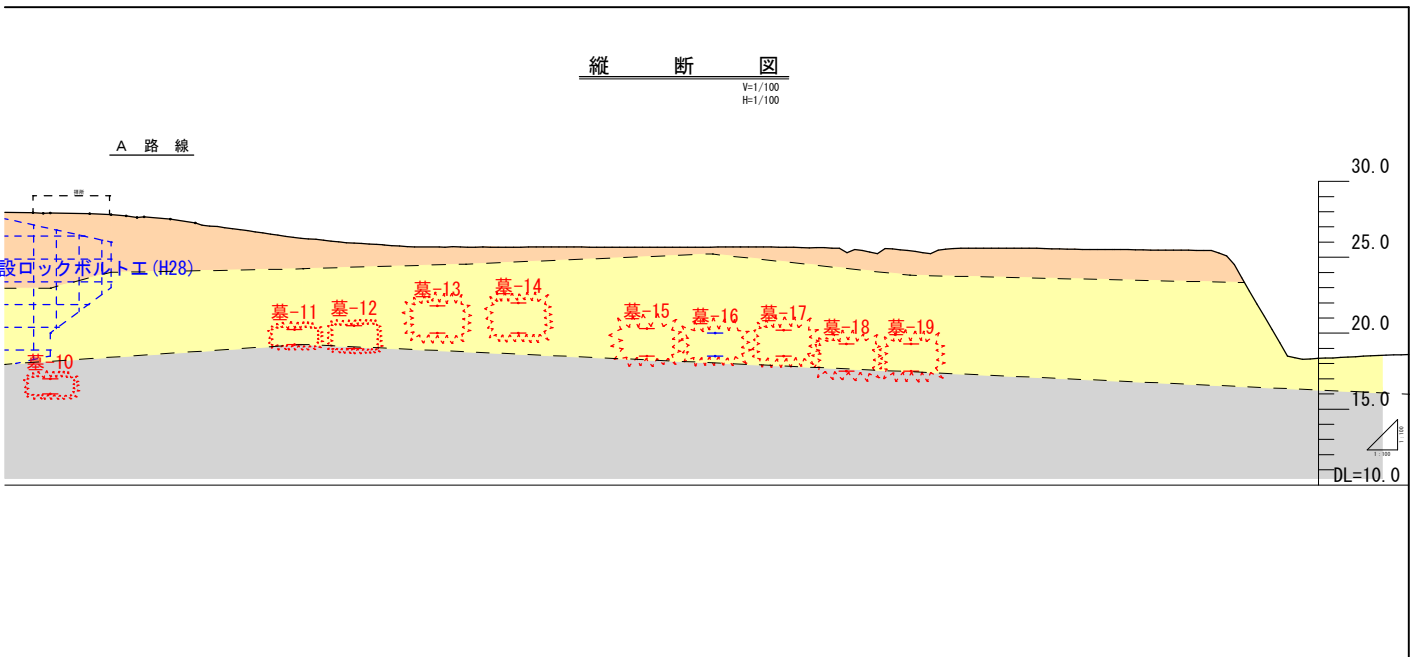
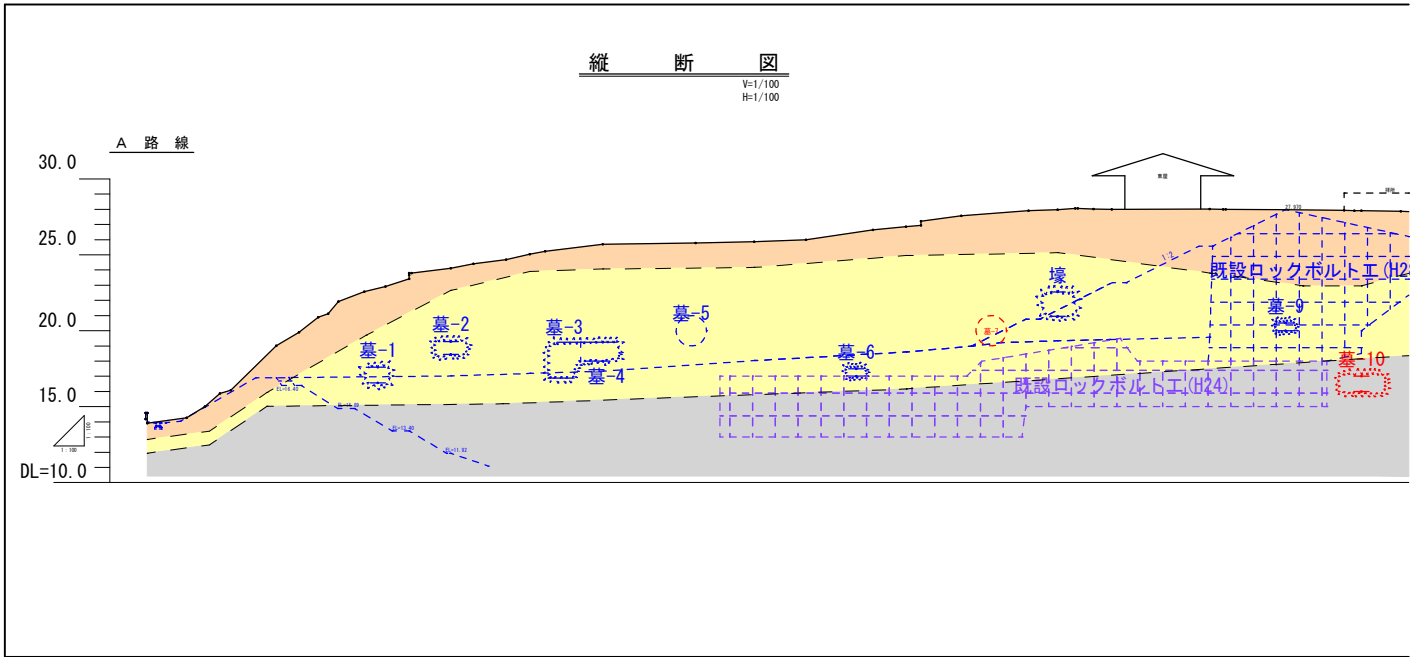


○西森公園の古墓調査の経緯

H24年度 西森公園全域において古墓調査を実施。
 H27年度 公園西向き斜面にて、7基(墓-1~6,9)を
 H28年度 西森公園災害防除工事の際、H27年度に
 確認された古墓・骨壺を撤去した。
 H28年度 西森公園西側~南西側斜面において10基
 の古墓の内部を目視調査した。

墓	幅(m)	奥行き(m)	高さ(m)	骨壺(個) 壊れ含む
墓-10	-	-	-	-
墓-11	3.0	2.5	1.0	4
墓-12	3.0	2.2	1.5	3
墓-13	-	-	-	-
墓-14	3.0	2.5	2.0	16
墓-15	3.2	3.5	1.8	12
墓-16	3.2	4.0	1.5	0
墓-17	3.3	1.5	1.7	1
墓-18	3.5	2.0	1.8	3
墓-19	3.0	2.0	1.8	9
目視確認の骨壺合計				48

工事名	西森公園災害防除工事(第3期工事)		
図面名	平面図		
作成年月日			
縮尺	S=1/200	図面番号	33-01
会社名			
事業者名	沖縄市役所 建設部 建築・公園課		



墓-No.
平成28年度西森公園災害防除工事(第3期工事)にて
古墓の撤去、骨壺の移設の対策済み箇所

墓-No.
H28年度西森公園災害防除調査にて目視確認箇所
古墓の撤去、骨壺の移設の未対策箇所
※H28工事で墓-16の骨壺は移設完了。

凡例

Dt-g	: 礫質土 (石灰岩起源)	崩積土
Dt-c	: 粘性土 (石灰岩起源)	
RLs	: 琉球石灰岩	
Tc	: 粘性土	与那原層
Tms	: 風化泥岩	
Tm	: 風化泥岩	

推定土層縦断図(古墓位置)

H=1/200
V=1/100

凡例

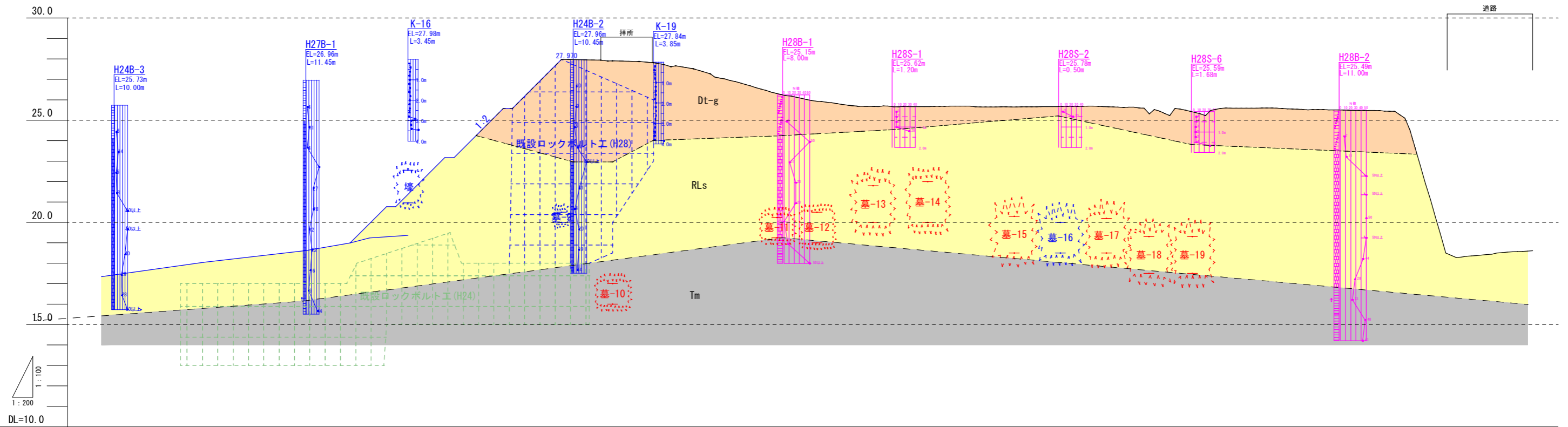
- Dt-g : 礫質土 (石灰岩起源)
 - Dt-c : 粘性土 (石灰岩起源)
 - RLs : 琉球石灰岩
 - Tc : 粘性土
 - Tms : 風化泥岩
 - Tm : 風化泥岩
- 崩積土
 与那原層

■ 平成28年度西森公園災害防除工事(第3期工事)にて
古墓の撤去、骨壺の移設の対策済み箇所

■ H28年度西森公園災害防除調査にて目視確認箇所
古墓の撤去、骨壺の移設の未対策箇所

西森公園災害防除工事(第3期工事)区間

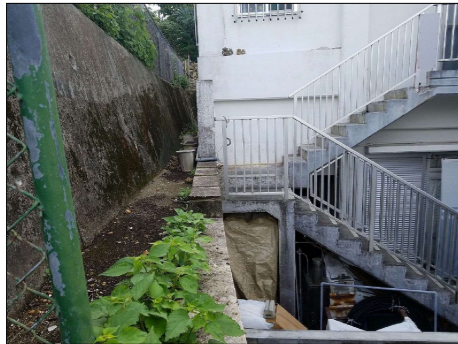
平成28西森公園災害防除基本設計調査区間



地盤高	17.341	18.044	18.617	21.370	25.570	27.91	27.81	27.52	27.27	27.110	26.460	25.930	25.820	25.680	25.670	25.690	25.660	25.680	25.620	25.570	25.600	25.630	25.510	25.510	25.470	21.110	18.400	18.610
追加距離	30.000	40.000	50.000	60.000	70.000	80.000	84.000	87.901	88.550	90.000	95.000	100.000	101.891	108.487	110.000	115.000	120.000	125.447	130.000	135.000	140.000	145.000	150.000	150.100	155.000	160.000	165.000	170.000
単距離	4.800	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	4.000	3.901	1.649	0.450	5.000	5.000	1.891	3.487	1.513	5.000	5.000	5.447	4.553	5.000	5.000	5.000	5.000	0.100	4.900	5.000	5.000	5.000
測点番号	-ANO.1+10	-ANO.2	-ANO.2+10	-ANO.3	-ANO.3+10	-ANO.4	-ANO.4+4.00	-AEP.1	-NO.4+9.55	-NO.4+10	-NO.4+15.00	-NO.5	-NO.5+1.89	-NO.5+8.49	-NO.5+10	-NO.5+15.00	-NO.6	-NO.6+5.45	-NO.6+10	-NO.6+15.00	-NO.7	-NO.7+5.00	-NO.7+10.10	-NO.7+10.10	-NO.7+15.00	-NO.8	-NO.8+5.00	-NO.8+10
平面線形 曲率図																												

緩斜面踏査平面図

NO SCALE



写-2：斜面と住宅が密接し、多数の石灰岩塊が残存。常に住民に不安を与え続けている状態。



写-1：既設ロックボルト工の境界付近にて、不安定な石灰岩礫群が存在。仮囲いしているが、効果が無い。



写真-14：公園敷地と駐車場の境界付近には、高さ約0.5~2.0mの石積み壁が存在。石積み壁の継ぎ目に部分的に空隙が見られ、不安定化が進行すると思われる。



写真-15：一部石積みに緩みが生じている。



写真-13：既設駐車場から奥で平坦地を確認。十分な土地利用がなされていない状況。



写-3：民地同士境界においては、部分的に擁壁が変状し、部分的に無対策区間を有する。

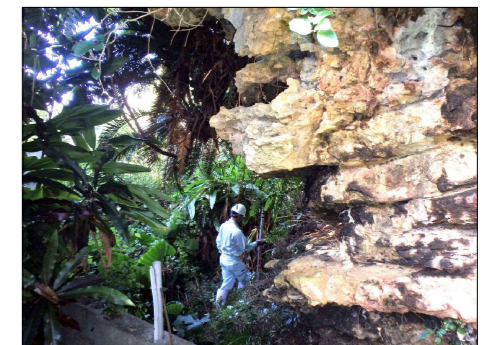
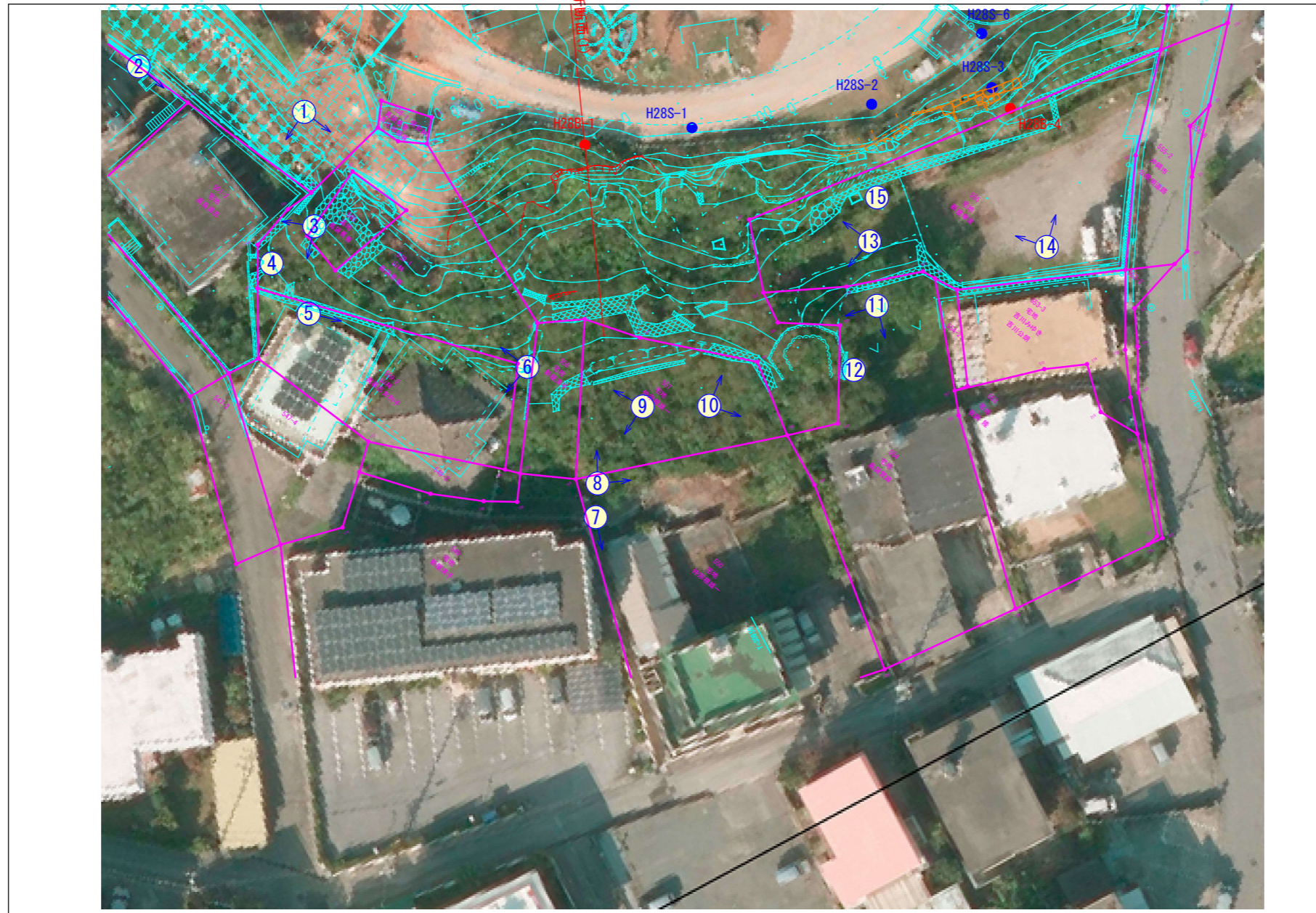


写真-12：浸食によって、激しく表面の凹凸が形成され、民家の庭の一部入っており、危険な状態。



写-4：無対策箇所においては、石灰岩礫が露頭し、下方の住民にとって、非常に危険な状態。



写真-11：石灰岩巨礫は、住宅側を面して差別浸食を受けオーバーハング形状を示す。



写-5：民間が構築したと思われる石積み擁壁。住宅の脇に転がり落ちたと思われる岩塊を確認。



写-6：民家の裏の背後斜面から土砂の押し出しを受けている状況。

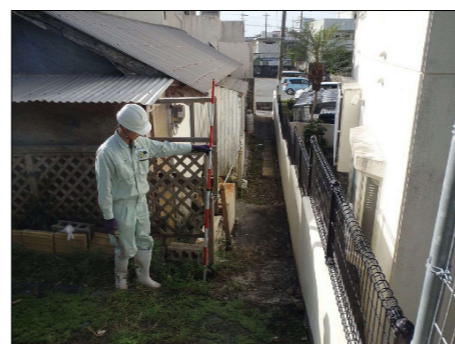


写真-7：道路からの進入口は、人が通れる幅しか確保されていない状況。

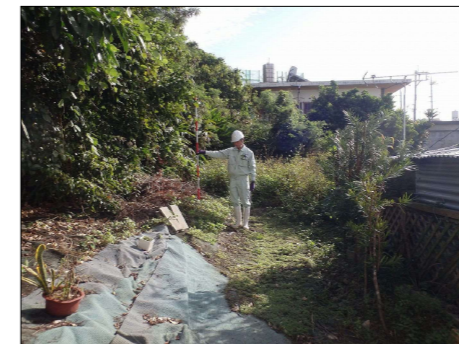


写真-8：進入口が狭く、斜面と民家の間においては土地が有効利用されていない状態。



写真-10：公園敷地と民地の境界において、高さ約3.0m幅約7.0m程の石灰岩巨礫が存在する。



写真-9：地形的に平坦部となっているが、進入口が無く袋小路となり、土地の価値が非常に低いと思われる。